

株式会社 センシヨー

直近7年で3倍の規模に飛躍
大物手がける老舗めっき業

納期相談
企画力自信有
コスト相談
オンリーワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産対応



若い女性も現場で活躍

業務内容
若手の活気あふれ
都市開発で受注伸長

石油やガスの掘削用機械向け継ぎ手などのめっき加工を得意とする同社は、昭和6年に創業し90年近い歴史を持つ老舗企業。堀内麻祐子氏が社長に就任した平成23年から、従業員数と売上げがともに約3倍の規模に拡大。現在は従業員の半数が20代となっており、老舗ながらもチャレンジ精神旺盛な活気に満ちている。

近年はあべのハルカス（大阪市阿倍野区）やグランフロント大阪（同北区）などの施設で配電盤などに使われる「ブスバー（導体棒）」のめっき受注も伸びており、堀内社長は「都市開発の活性化が追い風」と期待する。

強み
24時間体制の量産も対応

鉄鋼メーカーとの長い取引の歴史を通じて培った技術を土台に、最大2mを超える大物のめっき加工を強みとする。長尺の製品では対応できる同業が少ないため、広島県や福井県といった遠方からの仕事も引き受けているという。平成25年以降は会社の規模拡大と並行して、自動硬化クロムめっき装置や自動ニッケルクロムめっき装置などを相次いで導入。24時間稼働による量産対応も可能な自動硬質クロムめっき装置を持つのは、大阪府内でも同社を含む2社のみだ。最新設備による自動化を進めることで、生産性を高めている。

人材育成
会社成長のカギを握る
”人づくり”に注力

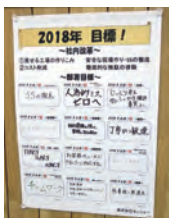
大物のめっき加工を中心しつつ、汎用品である配電盤部品のめっきにも対応してきた。新たな分野への参入も考えるなかで、

若手の成長が会社としての成長のカギを握っていく。20代が多いということは、若い人を採用するうえでの強みになる。会社としても、向上心の高い若手を外部研修や職業訓練校に参加させるなど、人材育成に力を入れている。より強固な組織づくりのため、2019年には人事評価制度の整備を通じ、能力と給与の関係を明確化。堀内社長は「若い従業員にどのような成長の道があるのか示したい」と、次の展開を見据えている。

今後の展望
再スタート期に設備揃え
新分野への参入図る

平成23年、祖父と父が経営していた同社を堀内社長が買い取る形で引き継いだ。当時の売上高は約2億円、従業員は18名だった。債務整理などにめどを付け、本格的に再スタートを切ったのは同25年。取引先や銀行からの支援も受けながら、古い設備を相次いで刷新。事業規模の拡大へと舵を切るとともに自動化を進めた。

今後は医療分野への参入を目指していく。医療機器のめっき加工に乗りだすため、すでに展示会に出展するなど販路開拓に向けて歩みを進めている。必要であれば、既存の工場の中にクリーンルームを設置するといった、医療分野が要求する環境の構築も検討しているという。

自動ニッケル
クロムめっき装置個性ある
手書き目標

当社の歴史



当社は昭和6年、私の祖父である野村正一が大阪市港区で創業しました。以来、「野村鍍金工業所」として大物のめっき加工を手がけてきました。平成23年に私が会社を買い取る形で経営を引き継ぎ、同時に社名を祖父「正一」と祖母「千加江」にちなみ「センシヨー」としました。

代表取締役 堀内 麻祐子さん

<http://www.sensyo-ltd.co.jp/>

ISO 9001
ISO 14001

主な事業内容

ニッケル、スズ、ニッケルクロム、硬質クロムなど各種めっき加工

主な取引先(納入先)

鉄鋼メーカー、自動車部品メーカー、工具メーカーなど

●住所 〒557-0063
大阪市西成区
南津守5-2-64
●TEL 06-6657-0007
●FAX 06-6657-0185
●創業 昭和6年
●設立 平成23年4月
●資本金 1,000万円
●従業員 63名